

酒々井町郷土研究会々報

第79号

平成8年1月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

新年を迎えて



酒々井町長 吉岡正孝

新年明けまして

おめでどうございませう。



皆さんには、希望と期待にあふれるさわやかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

私も、この平成八年の新春を皆さんとともに迎えることができ、ありがたく深く感謝いたしております。

昨年、町民皆さんの厚いご支援ご支持を賜り、第四十代の酒々井町長の重責を担わせていただくことになりました。初心を忘れず、町民福祉の向上と地域の均衡ある発展を図るため、誠心誠意尽くす覚悟であります。今年も皆さんのご指導ご鞭撻

を賜りますようお願い申し上げます。

さて、歴史と伝統を育む町も、今や二万人台の人口を抱える住宅都市へと大きな

変貌を遂げておりますが、二十一世紀に向かつて更に活気に満ちた魅力ある町として発展させていくことが求められております。

そのためには、町民の皆さん誰もがこの酒々井町に住んで良かったと感じられる、ふるさと酒々井の創造に全力を傾注し、町民の皆さんの負託に応えていくことが私の使命であります。

そこで、酒々井町郷土研究会の皆さんの活動は、町の歴史の研究とともに、先人の労苦に対し新しい光りを与えていただける活動であります。その成果は、とりもなおさず町に

とって、郷土愛の高揚など、まちづくりに大きく寄与するものであります。どうか、これからも会員の和を大切に研究を重ねられますとともに、皆さんのご多幸と酒々井町郷土研究会の益々のご発展をご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

迎春



年頭にあって

酒々井町郷土研究会長

會田 秀雄

新年明けましておめでとうございます。月並な言葉ではあり

ますが、これは日本の年中行事(政治・原始信仰・神道的・仏教的)の内でも一番大事な新年行事の言葉ではないかと思われまふ。遠く私達の祖先が、その英知と信仰、奉仕によって築き伝えられて

来たいわゆる行事(祭り)であり年の始まりであります。元旦の恵方詣で・初詣で・年賀・七福神詣で・修正会、みな懐しく私達の心をゆり動かすものと思っております。

かえりみますと郷土研究会は前会長相原晴次氏により酒々井町文化財審議委員会を中心として地方史研究会というものがつくられ、町

内の古文書調査や文化財の調査を実施して古文書目録を作製するなど成果を挙げておりました。一層の発展をめざして昭和五十二年一月に郷土文化の向上と文化財愛護、郷土の歴史・地理を学びながら、会員相互の親睦を図ることを目的として発足したのが酒々井町郷土研究会であります。本会も今年創立二十周年の節目を迎えました。私も前会長の後を受けつぎ無事今日に至っておりますのも、役員ならびに会員の皆様のご指導ご協力のおかげと深く感謝申し上げます。今後は現下の政治世相に少々不安はありますが平和なる時代といえましよう。この時代において、私達は総親和を計り、自分の姿をはっきりと認識し、郷土研究会の歴史本来の文化を皆様と共に進めて行くことではありませぬか。何卒会員の皆様には旧に倍しお力添え下さいますようお願い申し上げます。

終わりにのぞみ皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

謹賀新年

本年もよろしくお願ひします

平成八年元旦

郷土研究会運営委員会一同



紅葉の甲府路を訪ねて

綿貫千枝子

私は此の夏に郷土研に入会し、日帰りの昇仙峡巡りに参加させていだきました。中央公民館に午前六時集合とのこと、自宅を五時三十分に出ると、朝明けの遅い十一月下旬で、表は暗い中を集合同場所に向かい、バスで佐倉インターより高速道路を進行。早朝のため道路も順調に進み、九時には甲府市内に入りました。思ッたより早く到着しました。バスを降りると、風が少しありましたが、わりあい暖かく感じ、良い旅であるように思いました。車窓から眺望する富士山には綿帽子のような雪があり、すばらしい景色で、幾度となく見た山の様子ですが、その度毎に異なった風景を見せてくれる日本の山の風格があり、感動させられます。断崖絶壁の岩肌も自然のままに造られた風景は、人の力の及ばぬ壮麗な気さへ感じられます。案内書にもありましたが、岩肌には日差しがあたると、いろいろな色合いが映し出されて神秘さを感じて、本当に驚嘆の声があがり、どよめきさえ起きてしまいました。昼食のほつどう鍋も美味しく、体中が暖かくなりました。

武田神社に参拝(宝物殿)。思林寺では境内の大杉に太古の昔を偲び遠い歴史を感じ、昔人の偉大

な生きざまを想い、現在の私達に残してくれたことに感謝するだけでした。会長さんの説明により、年代の象徴と言われる鬼瓦には時代の古さがあるとの話に聞き入り勉強になりました。

帰路に着く途中、赤松林、黄色に色づいた銀杏並木など目の保養になって、本當によい一日の旅でした。今後とも機会があったら是非参加したいと思えます。

名勝地探訪

斉藤喜一



泉をくむよ
かんでよ
こんもば
でつきな
一ないが
休みいづ
み泉のよ
のよきま
のよます
のよ仲間

日毎寒さのつる師走の五日、風もなく暖かい小春日和の一日を郷土研の皆さまと一緒の名勝地の史跡探訪に同行させていただき魂の躍動と

血液の循環を感じました。今回自己紹介を兼ねて、初めて投稿させていただきます。私は酒々井に移り住んで二十余年になりました。今までは企業戦士として、四〇余年会社一途の生活で、多忙のため時間におわれ名勝旧跡等の探訪やら深く学習する機会もありませんでした。たまに出張等で行く先々の名勝史跡を、かけ足で見学して来た程度で、心に残ることも少なく、今考えると残念です。

これからは会長をはじめ皆様のご指導を得て、勉強していきたいと考えております。

今回のコースの中で六義園・真性寺・高岩寺・サンシャインと廻って来ましたが、特に印象的であったのは六義園の回遊式築山泉水庭園の造形美でした。これだけ広大(約二七〇〇坪)な土地に、工事を施行したと思つくと元禄時代の権力と財力のなせる技かと感じ、しかし、その影で悪政に苦しめられた庶民の生活苦も思いおこされ傷心の極みです。名勝六義園は池、樹木等の配置を設計及び施工を独自の思想を以って実施したと伝えられております。中国の詩経六義を基調としているようですが、我々凡人には測り知れないものがあります。しかし、この様な名園を後世に残したことは現代人に慧い場とやすすぎの場を与えて来ています。一方新旧対象的に空間の高さ二四〇米の建築造形の雄姿サンシャインビルは、現代の技術力を後世に残すことでしょう。

サンシャインの展望台を最後にスケジュールを無事終了しました。真性寺で家族の健康を願い、高岩寺で心のトゲを抜き、やすらかな気持ちで帰途につきました。

今回参加させていただいて、一番の収穫は地域の人々と、心のふれあいが出た事です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

急ぎ過ぎた、蜻の足

亀井香久

十月二十七日の観察会では、蜻の足の草紅葉が期待外れで残念でした。九月初旬の異常低温故に、急ぎ冬仕度への衣着えをしたようでした。自生植物の自然まかせは当然ながら例年にならぬ空姿でした。来年は各自、頃合いを見ての観察が良いと思います。

さて当日「牛の竹筴(いなね科)を観察しました。昼食時に簡単な説明をしましたが、いなね科特有の花穂が禅宗僧の修行の際に使う長さ四五センチ程の鞭の形に似ているので名付けられたようです。最近あまり見かけません。次に艶やかな花色の「サクララテ」又花の形から呼ばれる「丁字葉」これはあかばな科です。茎に葉鞘がありませんが、ボントクアデラは役立たずの意味の凡愚から引用したようです。

最後に、岩橋城跡では、日照差し場所なのに「クモキリソウ」(らん科)が何本もありました。此のような自生蘭は滅多に見ることはありません。大事に保護したいものです。消えゆく草花を惜しみましょう。

東金方面の見学会より

小野 富路子

民家の角をまがって、細い小径を
行くと、武家屋敷門と古民家が目
にとびこんで来ました。

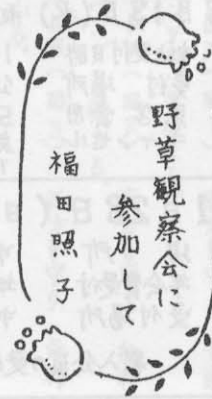
文久二年、当時の老中本多美濃
守の江戸屋敷門であったのをこの
東金の地に移築されたもので、固
の重要文化財になっているとのこと
です。いつか旅した萩や金沢のどんが武
家屋敷よりも格が違い、大きくて、お
屋敷全体が立派だったことをうかがわ
せる門でした。

すぐそばに、明治、大正にかけて八
年の歳月を費やして建てられた、埼
玉県加須地方より移築された豪農
の家がありました。これも又、二階
屋の立派なもので、玄関より入ると、
四角の太い大黒柱が凛と立って、
骨組みもみごとく、たたくと威嚇し
ました。「世がせてあれば、小野さん
はここにだよ。」と、どなかのお声。
土間の右手に使用人の部屋がありま
した。

奥の庭に出ると、間口何間あるの
でしょうが、長い廊下があり、ガラ
ス戸は全部ビードロとのことでした。
いくつかの部屋の内、段差のついた畳
の部屋がありました。低い方は女子
部屋だったそうで、その様な所にま
で差があったのかと初めて知り、今

の時代に生きて良かったとつくつ
く思いました。

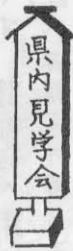
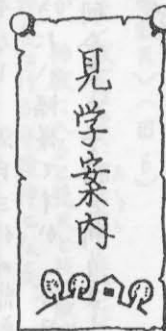
菅原工芸ガラスでの手作りの作
品を受け取り、皆嬉しそうにかか
えて帰りました。私の器には娘の
サラダが入りました。



お天気も良く散策にはもってこ
いの日でした。城の越(上岩橋大
鷲地区)から亀井先生と合流して、
下岩橋の「タコのアシ」を観察に
行きました。途中この草は何、こ
れは「オランダグミミナグサ」とか、
普通雑草として見逃していた、小さ
な草や木など一つ一つ教えて頂き
ながら、集合地点に時間ぎりぎりに着
きました。

宗吾参道駅に集合の三十数人の方
達と、下岩橋地区を散策しながら「ハ
ルジオン」「ヒメジオン」の見分け
方や、今では珍種となった「イヌタ
デ」の白「ミズヒキツウ」の白「な
ど見つけたら、小さな花の雑草で「ヒ
メクグレ」などと教えて頂きました。
時には「ウシノシツペイ」とか「カ
マツカ」(別名「ウシコロシ」)な
ど初めて耳にする恐ろしい名の草木
などを見て「タコノアシ」の群生

地に着きました。初めて見る草とい
うか木というか、紅葉して木当に茹で
蛸を逆さにして棒の先につけた感じ
の草でした。今では珍しい植物とさ
れているそうです。「ガマ」も茶
色の穂をつけていて、むかし蚊いぶ
しにした話などありました。教員もな
った「ミクリ」もあり、町の総合公
園に移植するとの話でした。
帰り道、岩橋城跡を見学。「エビ
ネ」によく似た「クモキリソウ」の
群があり、自然の恵みを感じた一日
でした。



3/13 (水)

(白浜・館山方面)

お寺と花つみの旅

県南第一の観光林養都市である館
山市街の北に位置する船形の崖の観
音、那古寺を中心とした門前町的な那
古をたずね、房総の最南端の白浜町
から千倉へ。花いっぱいの一足早い春
の一日をお過ごし下さい。

- ・補陀落山普門坊千手院那古寺
(坂東三十三観音の結願寺)

源頼朝が平家追討を祈願、平家
滅亡後、本堂・三重塔・仁王門などを建

郷土研日誌 17.10月~12月		
月日	内容	参加者数
10.14	史談会「史料読む酒々の歴史のひま(7)」	14
24	県内見学会、東金方面 A班	27
25	〃 B班	31
27	野草観察会、下岩橋地区	35
11.9	県外見学会、甲府方面	44
12.2	史談会「史料を読む酒々の歴史のひま(8)」	19
5	名勝探訪、茨城・池袋方面	35
6	運営委員会	26
27	会報発送	23
	延	254

立され、真宮密教の道場となる。江戸
中期の見事な多宝塔は県指定の文
化財。千手観音立像と阿弥陀如来坐
像は共に国指定重要文。本堂前の大ツ
テツは見事である。
・崖の観音(船形山大福寺)
海岸に面した船形山の中腹にあり、
本堂・観音堂・庫裡等が断崖の途中に
はりつくように建っている。特に観音堂
は朱塗り舞台造りの建物で、荒々しい
岩肌にくいこむように建ち、其の舞台か
ら海岸の眺めは爽にすばらしい。堂内背
面の県内最古の磨崖仏が本尊である。
白浜フラワーパークにて昼食をと
ったあと、千倉のお花畑で各自お好
きな花を切り取り、購入などゆくりとお
花見を楽しみましょう。
帰路は大原海産物センターでショッピ
ングをして、浪乗り道路をドライブし
て帰ります。
(今回は八街観光バスを利用します)

郷土研行事案内

平成8年1月~3月

	1 月	2 月	3 月
史談会	休 日	3日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(9) 講師 高橋健一先生	2日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(10) 講師 高橋健一先生
名勝探訪	1月21日(日) 雨天代替 2月4日(日) 鎌倉方面 コース JR酒々井駅—鎌倉駅—鶴岡八幡宮— 建長寺—円応寺(十五の寺)—小町通り— 鎌倉駅—JR酒々井駅(時間などによりコースの変更あり)	JR酒々井駅改札口集合 6:30 (時間厳守) ホリデーバス代 2000円 (1日乗り放題)	
野草の会	2月22日(木) 公民館 講堂 12:00 会食 七草粥を食べる会 申込受付日時 1月28日(日) 12:30 公民館ロビー 定 員 80名	会費 700円 公民館ロビー (お手洗い downstairs は 9:00 までに調理室に来て下さい)	
県内見学会	3月13日(水) 雨天実施 定員 45名 申込受付日時 1月28日(日) 12時30分 受付場所 公民館ロビー 見学費用 5,500円 キャンセル 実施日の3日前まで 会田宅まで TEL	コース 酒々井中央公民館(7:00)—市原PA—館山・崖の観音—那古観音—白浜(昼食・見学・ホビー花つみ)—波のりHW—酒々井中央公民館(18:40)着予定	白浜・館山方面 集合時間 6:45 (出発時間 7:00)
平成8年 第20回総会	1月28日(日) 12時30分から受付 場 所 中央公民館 講堂 年会費受付 年 1,000円 (平成8年1月~12月) 受付場所 中央公民館 ロビー 新入会員の受け付けもしますのでお申し出下さい。	午後1時30分開会 議 事 ・平成7年度事業報告及び決算の承認について ・平成8年度事業計画案及び予算案について ・その他	

巨福呂坂を上ると建長寺。鎌倉五山筆頭の格式をもつ、わが国最初の禅宗道場の壮麗さが漂っています。道をはさんだ円応寺は別名「十五の寺」といわれるように間蔵さま(重文)を始め、十五像が安置され、地獄の裁きの場はかくあるかと思える人を恐怖させる偉容は圧巻です。改心したあとは、小町通りで家族に感謝のお土産を求めて帰路に着きます。

今年最初の名勝探訪は、ホリデーバスを使って鎌倉まで初詣の旅です。頼朝が、妻政子の安産祈願のために築いた段葛を辿ると、朱塗りの社殿も美しい鶴岡八幡宮です。静御前の舞った舞殿、公暁(源頼家の第三子)の隠れた大銀杏など、源氏三代の悲劇を見てきた八幡様ですが、今日は郷土研会員の平穏を祈りましょう。

鎌倉方面

雨天代替 2/4(日)

名勝探訪



会計報告

昇仙峡方面 44人 (1/9)	九十九里・東金方面 58人 (10/24・25)
収入 44 × 7000 = 308,000	収入 145,034
支出 八街観光へ 280,656 ドライバー代 8,000 お土産代 3,600 コピー代 100 返戻金 13,200 305,556	支出 菅原工夫 119,480 脚車使用料 20,600 お礼 6,000 菓子代(山陽学園) 3,700 コピー代 2,009 151,789
差引残金 24,444円 24,444円 郷土研へ繰入れ	差引不足 6,755円 6,755円 郷土研より補足

今年第二十回目の記念すべき総会だそうなので皆で参加しよう!!

あとがき

阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件など暗い出来事が多かった平成七年も終わり、期待に満ちた新しい年が始まりました。

酒々井町では旧年二月に吉岡町長の新体制が誕生しました。我が郷土研究会も會田会長のもと、多方面にチャレンジして発展しますよう会員の皆様の御協力をお願いいたします。

今年も様々な行事が予定されておりますので皆様お誘い合わせの上御参加下さい。

